

韓国内の韓国語教育としての文化教育の研究動向と
日本の大学における韓国語教育の現状について
—— 松山大学の初習言語「韓国語」の事例を中心に ——

金 菊 熙

松 山 大 学
言語文化研究 第40巻第1号 (抜刷)
2020年9月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 40 No. 1 September 2020

韓国内の韓国語教育としての文化教育の研究動向と 日本の大学における韓国語教育の現状について

—— 松山大学の初習言語「韓国語」の事例を中心に ——

金 菊 熙

要 約

외국어로서의 한국어 교육에 국한되지 않고 국내외의 공적 교육 기관에서 이루어지고 있는 대다수의 외국어 학습의 도달 목표는 목표언어를 통한 '의사소통 능력의 성취'라 할 수 있다. 또한 그러한 교육 목표의 이념으로서, 사용하는 언어가 다른 타자와의 의사소통을 통한 쌍방간의 이해, 곧 상호문화의 이해라는 궁극적인 목적이 존재한다. 결과적으로 외국어의 구사 능력은 다른 문화적 배경을 가진 타자와의 상호 이해를 위한 수단임과 동시에 기능(skill)에 해당하는 것이다. 그러나 외국어 학습에 있어서의 첫 단계는 목표언어에 대한 언어적인 기초 지식의 습득으로 시작한다. 목표언어에 대한 지식이 없으면 언어를 통한 문화 이해도, 원활한 의사소통도, 상호문화의 이해도 도달하기 힘든 목표일 수밖에 없다. 바꿔 말하자면, 상호문화의 이해라는 목적을 달성하기 위해서는 원활한 의사소통에 이르기 위한 충분한 언어적 지식을 배양할 필요가 있다.

목표언어를 구사하는 생활 환경에서 이루어지는 외국어 습득 환경과는 달리, 일본의 공적 교육 기관에서 실시되는 제 1 외국어, 제 2 외국어의 학습은 교육 기관 및 학습자 요인에 따라 많은 제약이 따르게 된다. 또한 한국과 지리적, 문화적으로 근접한 일본에서도 공적 교육기관에서 실시되는 제 2 외국어로서의 한국어 교육은 대학에서 처음 실시되는 경우가 많다.

본고는 입문 단계에서 초급 레벨까지의 교과 과정 안에서 보다 효율적인 언어-문화 통합 교육을 위한 기초 연구로서 먼저 한국내 한국어교육 관련 문화교육의 연구 동향을 정리하였다. 이어, 필자가 근무하는 일본의 4년제 대학에서 비전공 교양과목으로 교수-학습이 이루어지고 있는 한국어교육에 대해 상술하고, 한국어 입문 학습자들의 한국 및 한국문화에

대한 학습전 이해 수준과 한국문화 학습에 대한 욕구(needs) 분석도 실시하였다.

끝으로, 한국 밖에서 실시되고 있는 외국어로서의 한국어교육 현장에 있어서도 각 교육기관의 실정에 맞는 언어문화 교육과정이 절실히 요구되어지고 있는 현상항에 맞춰 이후 보다 심도있는 연구와 논의가 필요할 것으로 보인다.

キーワード：日本の大学で行われる初習言語としての韓国語教育，言語文化教育，韓国語教育としての文化教育，文化教育に対する学習者のニーズ

1. はじめに

外国語としての韓国語教育に限らず，一定の公的な教育機関で行われている諸外国語の教育目的としてコミュニケーション能力の養成が挙げられる。それに加え，公教育としての外国語教科の教育理念には，言語や文化の異なる話者間で「言葉」を介した意思疎通を図り，さらに話者双方間の文化の受け入れを認め合うといった相互文化理解の狙いがある。したがって，異言語によるコミュニケーション能力とは，異なる文化的背景を持つ他者との相互理解を成し遂げるために絶対欠かせないツールであると同時に高度なスキルでもある。相互文化理解に導くコミュニケーション能力を身につけるためには，まずは目標言語の文字となる記号を読み取り，発音し，単語と文型を理解し，言葉の意味が解釈できるまでの言語的知識を学んでいく必要がある。そしてそのような基礎となる言語知識が備えられてからこそ，言葉を介した円滑なコミュニケーションも，言葉を越えた文化の理解も十分叶えられるようになると言える。言い換えると，相互文化理解という外国語教育の究極的な目的を達成するためには，その根幹をなす言語知識を養うところから学習を始めなければならないということである。

外国語としての韓国語教育の研究分野においても近年文化間コミュニケーション能力の育成を目指した研究が活発に行われ，韓国語教育としての文化教

育にも大変注目が集まっている。「言語」と「文化」を分けて考えられないことは言うまでもないことであるが、当初言語の4技能の学習が中心となっていた教材の構成にも徐々に変化が現れ、今では重要な構成内容として「文化知識」の項目が加わるようになってきている。そして、次は教材で取り扱っている文化の内容についての分析が行われるようになり、「言語」と「文化」を個別の学習目標として捉えるもの、「言語として文化」を目指すもの、「文化を教えるための言語」といったように目指すものによって教育へのアプローチの仕方にも広がりが見られるようになってきている。

そもそも「言語」と「文化」を分けて考えることなく、初めから「言語文化」として統合されたものとして受け入れれば上記の議論も即解決になるのかもしれない。しかし、学校の教育課程の下、主に教室に限定された環境でのみ行われる外国語の教育現場では、教科としての学習到達目標、教授・学習時間、学習者の習熟度などの様々な要素によって各教科の教授内容が決められるようになる。つまり、各教科の性格をより明確なものにするためには「言語教育」と「文化教育」を分けて考えることの利点も少なくはない。そのような背景もあって、今では教育課程として「言語教育」と「文化教育」を分けて考える向きも広く受け入れられていると考えられる。その意味で、これまで長年研究が蓄積されてきた「言語教育」と違って、「文化教育」に関しては確立された教育課程がない上に、習熟度別の文化教育の内容の選定から、教授・学習資料の開発、文化教育に特化した教材開発、教授方法、教師教育、評価の問題に至るまでまだまだ未開拓の研究分野であるとも言える。

そこで本稿ではまず、より幅広い学習者層に対して韓国語教育が行われている韓国において「韓国語教育としての文化教育」に関する研究動向を概観する。それを通じて、外国語としての韓国語教育の中で「文化教育」がどのように理解され、現場に適用されているのかなど、研究成果としての知見と課題についても参考にできればと思う。続いては、筆者が所属する大学の事例を中心に、日本の大学で行われている初習言語としての韓国語の教育課程や教授内容につ

いて簡単に述べたい。その上で、ここ数年にわたって実施してきた文化教育関連の授業内容とその成果についての所見をまとめたい。さらに、言語教育としての「文化教育講座」の新設に際して、韓国語学習者の履修動機や文化に関わる学習ニーズについて調査した最新の内容についても一部記しておきたい。そして、韓国の言語文化講座の教育目的や教授内容の選定、教授・学習資料の準備、評価方法論に至るまで、先行研究の概観を中心に考察を行い、今後の授業運営の参考にできればと思う。

2. 韓国内の外国語としての韓国語教育の中の文化教育に関する研究動向

ここでは、2000年代に入ってから韓国国内で発表された研究論文や学位論文を中心に言語教育と文化教育の関係をめぐる研究動向と主な研究内容¹⁾についてまとめることとする²⁾。

2-1. 「言語と文化の統合教育」か「文化理解中心の教育」であるべきか

2000年代以降、韓国国内の韓国語教育の分野では言語教育と文化教育の関係および文化教育の内容に関して多くの議論が重ねられてきた。なかでも特に、文化教育において、文化内容の選定と提示方法をめぐる争点は、次の3つにまとめることができる。まずは、言語を中心に文化を教えるべきとする立場³⁾で

1) 韓国で韓国文化教育についての一般的な論議や韓国文化教育の内容及び方法について相対的に多様な研究成果が現れるようになったのは1990年代に入ってからで、2000年度以降、特に2000年代後半に入ってから、韓国語教育関連研究の中でも韓国文化教育に関する研究がより活発に行われるようになった (cf. Wang, 2010; Kang Seunghae, 2012; Cho, 2015; Na and Kim, 2016)。

2) 2000年代に入ってから約10年の間、韓国語教育関連の研究成果の中でも文化教育の研究が顕著な増加傾向に転じた理由について Wang (2010: 205) は、2001年と2005年に外国人留学生の急増に伴い、韓国語教育関連研究も成長の軌道に入ったことと、他文化社会への移行に備える意味で韓国語教育に関する関心が急増したことが影響している可能性があると述べている。

ある。次に、文化を中心に言語を教えるべきとする立場⁴⁾である。そして最後は、言語教育と文化教育を統合して行うべきとする立場⁵⁾である (Kim Yoonjoo, 2015: 5)。以下では、言語教育と文化理解教育の関係について考察した先行研究を発表年度順に沿って概観したい。

まず、Kim Soohyun (2005) は、言語教育と文化教育は二元的なものではなく、言語教育の過程で自然に韓国の文化を伝達できるように教育内容の構成方を模索していかなければならないという。続く Kim Soohyun (2006) では韓国語の教材に表れる文化関連の要素を調べたところ、本文会話の内容が韓国文化に関連付けられるもの、言語の4技能の資料として用いられるもの⁶⁾、文化コーナーを別途設けて韓国文化を紹介するものの3パターンがあるとし、多くの場合、文化教育の目標は学習者が文化を理解する過程で言語知識を学習し、言語教育に対する興味を持ってもらうためであると言う。Kim Jookwan (2010) もまた文化教育に関連して言語教育の領域では言語という媒介を通して行われるべきとし、言語を通して文化を理解する立場を取っている。また、言語教育において文化教育の必要性和文化教育に含めるべき項目についての議論は数多く行われているが、具体的にどう教えるかという教授方法についての議論はさほど行われていないと指摘する。その理由として Kim Jookwan は、コミュニケーション能力を構成する文化的知識の実態が何であるのかについての曖昧性が関係している可能性を指摘する。さらにそれは文化の概念が持つ包括性に起因するとも考えられ、結果的に文化教育の教授内容の選定や教授方法の開発ま

3) Kang Seunghae (2012: 9-10) では韓国文化教育のコアは言語であり、文化教育の概念や正体性は言語を中心に行うことを強調するものとして 김주관 (2007, 2008), 김하수 (2008) を挙げている。そして Kim Yoonjoo (2015: 5) においては, 김대향 (2003), 조현용 (2003), 조항욱 (2004) が取り上げられている。

4) 韓国文化に対する知識と教育を強調している研究として, Kim Yoonjoo (2015: 5) では, 배현숙 (2002), 박영순 (2003), 권오경 (2006) を挙げている。

5) Kim Yoonjoo (2015: 5) によると, 성기철 (2001), 민현식 (2004), 최정순 (2004), 황인교 (2006) がこれに当たる。

6) 文化関連の内容を「話す・聞く・読む・書く」活動の資料として提示するパターンは2000年度以降発行された教材に見られる傾向である (Kim Soohyun, 2006: 333)。

でも容易ではないとしている⁷⁾

Kim Eunji (2012) では韓国語教育での文化教育の目的と活動は当該言語と連携して計画されなければならないと述べながらも、その際の文化理解は、単純に知識としての文化紹介に留まらず体験的な学習につながるように指導していくことが肝心であるという。そしてそのような文化教育の方法として、教師主導の文化余談、ミニドラマ、ロールプレイ、演劇、歌とダンス、文学映画、ドキュメンタリー、雑誌と新聞の活用などが考えられる⁸⁾

Oh (2013) でもまた目指すべきは言語と文化の統合教育的アプローチであるとしているが、実際に行われている文化関連の教授・学習は言語活動と文化活動に区別されるか、分離されて行われる傾向があることを指摘する。その理由として Oh は、言語教育において教授・学習の焦点を言語そのもの、つまり言語の形態あるいは構造におくことで、より技能中心の言語活動をしようとするからではないかと述べている⁹⁾

反対に Kim Nam-kil (2013) は、言語と文化の関係には2つの層が存在し、その1つは文化の中の言語で、もう1つは教育現場の言語であるという。言い換えると、文化を構成する5つの次元(産物・実践・観点・共同体・人間)に欠かせない部分としての言語は前者に属する。そしてその文化を学習するための言語は後者に当たる。さらに前者の場合、言語は文化のどの次元からも分離できない反面、後者の場合は、経験的学習サイクルと文化知識が教授ガイドラインとして利用される¹⁰⁾ したがって、Kim Nam-kil は、言語教育と文化教育を別の教育目標として見なすべきとしている¹¹⁾

7) cf. Kim Jookwan (2010: 45).

8) Kim Eunji (2012: 68).

9) 言語の形態に重点をおいた言語教育は、教授・学習の面で効率性と経済性を持つものはあるが、文化を学ぶための、文化能力を向上させるための「文化教育」においてより注目すべき教育内容と活動は、文化学習の過程で行われる言語活動であると考えられる(Oh, 2013: 79).

10) Kim Nam-kil (2013: 56).

11) 本稿でまとめた Kim Nam-kil (2013) には Moran (2001) の定義や用語が用いられ、論旨の根拠として引用されていることを記しておきたい。

Bae and Kim (2015) では、世宗学堂¹²⁾ で開発された教育課程を紹介し、その中で教育時間を基準にまず「言語」と「文化」に教育内容を分け、さらに「言語」は「言語知識」と「言語技能」に、「文化」は「文化知識」と「文化実行」の学習に分けて教育内容を提示している。そして、世宗学堂における文化教育課程の設計は、韓国語教育課程に連携されるもの¹³⁾ であるとする基本方向を明らかにしている。

Yoon (2015) は、外国語教育の領域の中での文化教育は言語教育という枠の中で行われるべきであるという。一般的に言語は文化を反映するものであるが、文化は言語だけではなく文学・芸術・慣習・観念などの様々な形態で表されるものでもある。その意味で、言語教育は文化教育の全てではないが、文化教育とは不可分の関係にあると言える。したがって、外国語教育において文化は言語活動のコンテキスト内で、究極的には言語のコミュニケーションの行為を通して機能すべきである。さらに、言語教育と文化教育を分離して考えるより統合的に行うものとして考えると「言語文化」や「言語文化の教育」という概念¹⁴⁾ も可能であるという。

Na and Kim (2016) では、韓国語教育としての文化教育は言語教育のツールやその延長線で行われるものではなく、韓国語学習者の相互文化的態度の涵養

12) 世宗学堂 (Se-Jong-Hak-Tang) 財団の教育機関で、外国語または第2言語として韓国語を学ぶ世界中の学習者向けに韓国語と韓国文化の普及を目指している。

13) ここで言う韓国語教育課程との連携とは、韓国語教育内容とのトピックの連携を意味し、韓国語と韓国文化の内容が統合性を持つトピックで選定されることを意味する。さらにその際のトピック選定の基準は言語の要素ではなく文化的要素であり、1つのトピックの下で細部要素を構成するトピック統合式の文化教育を目指していると言う (Bae and Kim, 2015: 46)。

14) その間の韓国語教育における言語文化教育は文化要素 (cultural component) 中心の文化教育、つまり韓国文化に関する短編的な知識や情報を学習する形態であったと言える。その例として、韓国語のリーディングの教材等において文化要素に関する説明が「読む」活動のための資料、または文化余談のコーナーにおける知識の形態である。さらに、韓国の言語文化教育の実態として伝統文化や現実文化に関わる文化要素を重要な教育内容として提示しているが、現実文化の中でも特に「韓流」といった大衆文化現象が強調され過ぎている点は批判に値する。韓流の現象が韓国語教育や韓国言語文化教育に必ずしも肯定的に作用するとは思えない一面がある (Yoon, 2015: 4)。

と相互文化能力の伸長を目標とすべきであると主張する。その意味で、従来の韓国語教育の中でテキストの一部分を割り当てて韓国の伝統文化や価値文化を紹介するといった文化教育は学習者にとっては不十分かつ学習効果の疑わしいものであるという。

Kim & Choi (2016) においては、相互文化教育の実際的な実践領域としての相互文化学習の定立を目指している。その際、文化教育とは、それぞれ異なる民族性を含む文化を相対論的観点で理解する能力を養うものと定義付ける。そして、相互文化教育は文化教育の下位のカテゴリーに属するとしている。

最後に Suh (2017) は、言語学習は文化学習なるものであると述べている。文化に対する教授・学習内容は文化的知識と文化的経験で構成されるが、これらは全て言語活動に直結するものであるとする。一例として、韓国人の挨拶や親族間の呼称、食文化などは全て言語と一緒にのものと言っても過言ではないという¹⁵⁾

ここまで概観した先行研究の中には、韓国語教育の中の文化教育として、全ての教育活動は「言語」を介して行うことや言語活動に連携された文化活動を強調する動きがあった。しかし、文化教育についての議論が深まるなか、文化および文化教育に対する定義付けにおいて、より学習者中心の見解が示されるようになり、言語技能中心のコミュニケーション能力の向上に止まらない文化間コミュニケーション能力¹⁶⁾ 及び相互文化理解を目指す相互文化理解教育¹⁷⁾ を志向する傾向が現れるようになってきている。しかし、現時点において、外国語としての韓国語教育の教育課程にこの概念が十分取り入れられ、かつ教

15) Suh (2017: 232).

16) Lee & Benit (2016) では Byram (2016) の文化間コミュニケーション能力について概説した上、それを韓国文化教育にどのように適用できるかについていくつかの提案をしている。

17) 筆者の所見では、韓国ではまず2000年代に入ってからヨーロッパの言語教育研究関連の学会誌を中心にその概念や定義がより盛んに取り上げられるようになっていた。そして韓国語教育分野においては、文化教育全般の研究が増加した2000年代後半から関連テーマの研究の数も増え始め、近年では多数の関連文献が発表されるようになってきている。

育内容や教授・学習資料，教授方法，評価方法等についても十分な議論や研究成果が得られているとは言い難い面がある¹⁸⁾

2-2. 韓国語教育としての文化教育の内容

全体として外国語としての韓国語教育における文化教育の概念やアイデンティティーに関する論議は十分行われてきたといえる。通常，教育課程の「教育内容の選定及び構成」に該当する「文化教育の内容」に関しての審議が行われた後は「教授方案」に対する審議が続くことになるが，「文化教育の内容」の具現は「教授方案」と「教材開発」を通じて行われる¹⁹⁾ 以下では，先行研究で検討された具体的な文化教育の内容について主な3つを取り上げ，発表の順でまとめることとする。

Kang & Hong (2011) では，体系的な文化教育項目²⁰⁾ の選定と教育課程の開発を目指して，先行研究と教材の文化項目を分析するほか，韓国国内教育機関の文化プログラムの調査を行った。その結果をまとめたのが次の〈表1〉である。

〈表1〉 先行研究と教材の文化項目²¹⁾

区 分	大分類	中 分 類
Achievement culture	文 学	古典文学，現代文学，児童文学（伝来童話）
	芸 術	公演，大衆文化，童謡，文化遺産，遺跡，伝統公演，伝統工芸，伝統的な遊び，伝統武芸，伝統舞踊，伝統美術，伝統音楽，伝統建築，現代芸術
	人 物	政治，経済，歴史，韓流文化，文学，スポーツ
	歴 史	古代，中世，近代，現代

18) 相互文化教育についての詳述は本稿では省くことにするが，その導入背景や定義等については，別途 Kim & Choi (2016; 2019), Hwang (2016), Na and Kim (2016), Jo (2018) を参照されたい。

19) Kang Seunghae (2012: 20)。

20) 筆者らは Hammerly (1986) を用いて第2言語の指導において扱われるべき文化教育の内容を achievement culture, behavioural culture, informational culture の3つに区分している (cf. Kang & Hong, 2011: 4)。

21) Kang & Hong (2011: 6-7) の〈表2〉を抜粋して文化項目のところを日本語に直した。

	生活	住居生活, 服飾, 装身具, 食生活用のツール, 労働, 交通, 教育, 社会参加, 身分
Informational culture	韓国語	韓国語の特徴, 韓国の文字, 北朝鮮の言葉
	生活	祝祭日, 公共生活
	価値観	韓国の象徴
	宗教	韓国人の宗教
	政治	外交, 政党, 政府組織, 政治制度, 政府政策, 政治参加
	行政	行政制度, 行政区域, 行政組織
	経済	経済現況, 経済生活, 北朝鮮の経済, 企業経済
	法律	生活法律, 外国人関連法律
	科学	先端技術
	教育	教育制度
地理	天気と生活, 地理と地形, ソウル, 地域名所, 市場と路地, 博物館, 名山と川, 地域祭り	
Behavioural culture	韓国語	敬語, 感覚語, 話し方, ボディーランゲージ, 学習語彙(慣用表現, 諺など), 生活語彙, 方言, 呼称, 通信言語
	礼儀	慶弔時の礼儀, 招待/訪問時の礼儀, 伝統生活の礼儀, 食事のマナー, 飲酒マナー, 挨拶のマナー, 通信マナー
	生活	健康, インターネット, 教育, 大学生生活, 集会, 祭祀, 生活情報, 買い物, 食生活, ファッション生活(流行), 住居生活, 余暇生活, 対人関係, 軍隊, 交通, 公共生活, 金融機関の利用, 恋愛, 投資, 結婚と恋愛, 職業, 家族, 社会問題
	風習	記念日, 祝祭日と年中行事, 公序良俗, 名前, 生涯(慶弔時)
	価値観	集団主義, 権威主義, 単一民族, 韓国人の情緒, 男女差別, 世代差, 利己主義, パリパリ(빨리빨리)精神, 家族主義, 職業観, 結婚観, 外見重視主義
	宗教	迷信と禁忌, 多宗教, 占い
	政治	南北関係, 対外認識, 民主主義, 選挙
法律	生活法律	

上表の項目を基準に分析を行った結果、時代別では現代文化の割合が86.7%とほとんどを占めていて、これらはまた、情報文化と行動文化に集中していることが分かった。その理由として、現場で行われている文化学習が言語文化的

なバックグラウンドに対する理解を主な目標にしていることが挙げられる (Kang & Hong, 2011: 9)。さらに、学習レベル別では、上級の 46.6% に比べて初級と中級の場合、行動文化の割合がそれぞれ 70.1% と 75.4% で非常に高く、学習レベルが上がるにつれて行動文化以外の項目の割合が相対的に上がっていくことが分かった (Kang & Hong, 2011: 10)。

続いて Kang & Hong (2012) は、教授・学習の効果面で文化教育に対する学習者の地域・国別、熟達度、学習目的などの要件別ニーズ分析の結果を踏まえた議論が求められることから、韓国国外の韓国語学習者向け文化教育課程の開発のための調査研究を行った。次の〈表 2〉は、調査地域共通の結果である。

〈表 2〉 韓国語学習者の好みの文化教育内容：地域共通²²⁾

区 分	韓国語学習者の好みの教育内容
Achievement culture	生活 (服飾), 芸術 (遺跡, 伝統武芸), 人物 (歴史)
Behavioural culture	価値観 (パリパリ), 生活 (集会, 食生活), 生活 (余暇生活), 礼儀 (食事マナー, 飲酒マナー, 挨拶礼儀, 伝統生活の礼儀, 招待/訪問時の礼儀), 風習 (記念日, 祝祭日と年中行事, 生涯, 名前), 韓国語 (敬語, 生活語彙, 呼称, 話し方)
Informational culture	価値観 (韓国の象徴), 地理 (天候と生活, 博物館, 市場と路地, 地域名所), 韓国語 (韓国語の特徴, 韓国の文字)

調査の結果、海外の韓国語の学習者はおおよそ日常生活に深く関わった文化項目に対する好みが高いことが確認できた (Kang & Hong, 2012: 12)。また、学習者の出身地域・国別の好みの分析の結果からは、主に韓国社会全般に関わる概括的な情報や日常生活での行動様式、言語生活と関わるものが多かった。選ばれたもののほとんどが韓国語の教材で提示されているトピックと重なることと、この調査に応じた学習者層に初級と中級レベルの者が絶対多数であったことを鑑みると、教材や教室授業で接したことを選ぶ傾向が強いことが言える。

22) Kang & Hong (2012: 13) の〈表 2〉を抜粋して日本語に直した。

つまり、全く背景知識のない状態の新しいものよりは少しでも知っているものについて学習者は興味を示しているということである (Kang & Hong, 2012: 19)。

最後に Kang Hyunhwa (2017) では「文化」だけにフォーカスをおいた文化教材の分析を行い、文化キーワードをまとめた上、学習レベル別に文化教授項目を提案している²³⁾ 初級や中級の韓国語教材は文化そのものよりは言語と連携された文化トピックが主に取り上げられてきたことに対し、上級の教材では文化そのものに焦点をおいたトピックが多かった²⁴⁾

ここでまとめられた文化の教授項目は、初級・中級・上級のレベルだけで大別され、その他は基本内容の提示形として一覧化し自由に選択できる²⁵⁾

〈表3〉 初級の文化教授項の例示²⁶⁾

文化項目	詳細内容	文化タイプ	教授方式
韓国の象徴	愛国歌, 無空花, 太極旗	Informational	講義
公共の礼儀	公共生活のマナー (携帯電話エチケット, 歩きタバコ)	Behavioural	討論
大衆交通	交通生活 (地下鉄路線, 乗り換え, 交通カード)	Behavioural	講義
電話と生活	緊急電話	Behavioural	講義
韓国の慶弔時	生後100日目のお祝い (백일), 満1歳の誕生日 (돌)	Behavioural	講義

23) これについて Kang Hyunhwa (2017) は、実際言語教育の現場で活用されている文化項目をまとめることは、現場への適用面でより有効である (意味がある) としている。そして文化の教授項目は学習レベルに連携したものと文化独立形に区分できるが、ここでの提案は文化独立形の教授項目であることを明示している。

24) Kang Hyunhwa (2017: 11)。

25) 文化そのものに焦点をおいたもので教授言語が韓国語に限らない汎用的教授項目であること、文化の内容を難易度別に等級化すること自体大変難解なことであるため、学習レベルだけで分類している。したがって本教授項目は、各教育機関や教師の選択によって順序を変えることも、学習者のニーズによる項目の選別も自由に調整できる。また、学習レベルを超えた選択も可能となる (Kang Hyunhwa, 2017: 13)。

26) Kang Hyunhwa (2017: 14-15) の〈表2〉の一部内容のみ抜粋し、日本語に直した。

食事マナー	食事の開始時のマナー、スプーンと箸の使い方	Behavioural	講義
挨拶文化	年上の人に挨拶、握手、お辞儀	Behavioural	対照
伝統礼儀	礼のささげ方 (큰절)	Behavioural	講義
招待文化	靴を脱ぐ、贈り物を持っていく	Behavioural	講義
電話と生活	名前を名乗る、先に電話を切らない、応答する	Behavioural	講義
迷信と禁忌	縁起が悪いとされる数字 4、赤い色で名前を書かない、好まれる数字 7	Behavioural	対照
韓国の地理	韓国の地理的位置、特徴	Informational	講義
韓国の節句	お正月	Behavioural	討論
韓国人の名前	苗字、名前の特徴	Behavioural	講義
敬語とため口	相手による言葉使いの違い	Behavioural	講義
季節と天候	四季と天候	Informational	講義
ボディランゲージ	ほおづえを突く、腕を組む	Behavioural	対照
韓国語の特徴	語順、擬態語・擬声語、形容詞の発達	Informational	対照
ハンゲル	ハンゲルの創製、製作原理	Informational	講義
韓国の呼称	家族の呼称	Behavioural	講義
韓国の教育制度	6-3-3-4 学制、開学時期、進学年齢	Informational	講義
韓国の祝祭日	三一節、光復節、ハンゲルの日	Informational	講義
韓国人の余暇生活	同好会、スポーツ文化、外遊び	Behavioural	講義
電話と生活	特徴のある電話番号	Behavioural	講義
生活と買い物	市場、デパート、マート、夜市	Behavioural	講義
大衆文化	ファンクラブ	Behavioural	講義
韓国の文化遺産	南大門、景福宮、佛國寺	Achievement	講義
飲酒と礼儀	お酌をする	Behavioural	対照
約束のマナー	目上の人と約束をする	Behavioural	講義
電子メールと生活	〇〇拝啓、複数の人に発信する場合	Behavioural	講義
韓国の偉人	韓国の紙幣中の人物	Achievement	講義
特別な記念日	バレンタインデー、〇〇デー	Behavioural	講義
韓国の節句	秋夕 (추석)	Behavioural	講義
韓国の年中行事	小正月	Behavioural	講義

敬老思想	年配者席, 席譲り	Behavioural	講義
韓国の慶弔時	結婚, 葬式, 還暦	Behavioural	講義
名前とあだ名	あだ名	Behavioural	講義
ボディールANGUAGE	様々な身振り	Behavioural	対照
挨拶表現	様々な挨拶表現, 空世辞 (빈말)	Behavioural	対照
韓国の呼称	呼称の拡大現象	Behavioural	講義

上表3に示した初級の場合、韓国に関する全般的な情報を知ることにより重点が置かれている。日常的な衣食住の文化、結婚文化、家族文化、経済生活、政治生活、韓国人のアイデンティティーと象徴、祝祭日、伝統倫理と信仰などが含まれる(Kang Hyunhwa, 2017: 14)。中級からは行動文化が積極的に導入され、現代文化だけではなく伝統的な衣食住文化の変動、結婚文化、家族文化、経済生活、政治生活、韓国の年中行事と芸術、伝統倫理などを学習できる。現代文化の根幹をなす伝統文化の学習を通じてより韓国の現代文化の理解につながると考えられる。上級では、行動文化の中でも価値文化に重点をおき、社会や政治制度と連携された文化の様相を理解する。世界化と韓国の衣食住文化、結婚文化、家族文化、経済生活、政治生活、韓国の大衆文化と世界化、他文化社会等の内容を扱うことができる。授業方式も講義よりは討論の時間を増やしていくことが望ましい(Kang Hyunhwa, 2017: 15-16)。

以上、外国語としての韓国語教育の中で取り上げられる文化教育の具体的な教授内容についてトピックを中心に概観したが、実際これらの学習が求められる教育現場(韓国内と国外)をはじめ、学習目的、授業時数、教師、学習者の学習レベル、教授資料、教室環境など、様々な物理的な要因と制約も考えられる。以下では、日本の大学での韓国語教育の現状を振り返り、文化教育のあり方についても考察を行いたい。その際、筆者が所属する大学での教育課程および文化関連の授業内容についても詳述したい。

3. 日本の大学における韓国語教育の現状

3-1. 初習言語・初修外国語としての韓国語教育

韓国では第7次教育課程（1997. 12～2006. 11）が適用されるようになってから、それまで高校から実施されていた第2外国語の教科を中学から各学校の裁量で履修可能な選択科目の1つに編成できるようになっている²⁷⁾ 一方、日本の第2外国語の教育は、大学に進学してから学習が始められることが多く²⁸⁾ 入門のレベルから言葉の学習が行われることから「初修外国語」や「初習言語」の名称で、同じ外国語の教科でも「英語」とは区分されている。そして大学における初習言語・初修外国語の教授学習時数の編成に関しては、2000年代以降、より英語の教科に重点が置かれる傾向を受けて、英語以外の外国語の科目は「選択必修」から履修可能な科目に変更されたり、履修できる開講科目数が減らされたりするなど、全体的に縮小の傾向にあると考えられる²⁹⁾

そんな中でも、文部科学省が英語以外の外国語科目を開設した大学を調査した2000年以降のデータによると諸外国語の中でも韓国語³⁰⁾ が最も大きな幅で増加しているという。また、2012年度には全国の745ヶ所の大学のうち、約63%に当たる468ヶ所の大学で韓国語が開設されていて、そのほとんどが教養科目でいわゆる非専攻科目となっている（Hasegawa, 2015: 133-134）³¹⁾ した

27) 現在は2015年5月に改訂告示された「2015改訂教育課程」が適用されていて、生活外国語として8つの言語（生活ドイツ語、生活フランス語、生活スペイン語、生活中国語、生活日本語、生活ロシア語、生活アラビア語、生活ベトナム語）のうち1つの言語を選択学習するようになっている。韓国の第2外国語公教育の変遷過程については、金（2014b）を参照されたい。

28) Hasegawa（2015: 133）によると、日本の第2外国語教育の特徴として大学の第2外国語が占める割合が非常に高く、韓国語を初めとする第2外国語を大学に入ってから学習するケースが約95%に及ぶ（長谷川・斉藤 2014）という。

29) 筆者は2000年代前半から日本の首都圏および複数の地方都市で韓国語を教えてきたが、いずれの大学においても、カリキュラムの改変などによって初修外国語の開講科目数が縮小されてきている。

30) 日本では、国内の事情により、同一の言語でありながらも「韓国語」のほか、「朝鮮語」「韓国・朝鮮語」「コリア語」「ハングル」などといったそれぞれの教育機関で違った名称が付けられている。便宜上、本稿では、「韓国語」という名称で統一して表記したい。

がって、英語が主流になっている昨今の日本の外国語教育の実情を勘案すると、第2外国語として初めて習う言語であり、非専門教科で教養科目の1つとして教授されている「韓国語」となると、その教育課程がどれほど限定されたものであるか、想像に難くない。

Hasegawa (2015: 134) は、大学での韓国語教育時数について、非専攻の外国語科目の場合、90分の授業を週1回か2回行い、1年または2年間履修するケースが多く、最近では週3回授業を行う集中クラスのコースを設けるところや3、4年生まで継続して学習できるカリキュラムを設けている大学も多いと述べている。しかし、筆者の知る限りでは、4年制の大学でも選択必修としての学習は半期だけで、また週1回だけの授業といったカリキュラムが設けられている大学も少なくない³²⁾。このように非常に限られた教授学習時間でしか、初めて習う言語に接する機会がない教育課程の下では、週1回半期だけの授業なら、ようやく「ハングル」が読めるようになった段階で学習が終わることになると思われる。1回90分の授業を週2回、前期と後期を通して韓国語の教授・学習が行われた場合でも、平均して韓国語能力試験Ⅰ (TOPIKⅠ) の初級(1級)のレベルまで学習が進むことになると考えられる³³⁾。

このような現況を受けて、日本の大学で英語に次ぐ外国語として非常に限られた教授・学習時間の下で初習の韓国語教育を担う教師の中には、読む／書く／聞く／話すといった言語の技能に大半の教授時間を当てた学習内容ではなく、むしろ大学生である学習者が異国の言語や文化により興味を注がれるように、文化理解により時間を割いた教育が行われるべきではないかと主張する者もいる。しかし、そのような主張の背景が、少なくとも前章で取りまとめた韓

31) そのほかにも、Hasegawa (2015) では、日本国内の教育機関の形態を基に、韓国語の教育機関および学生数、教授と学習の様態等が詳細に述べられている。

32) 韓国と違って日本の多くの大学において1回の授業は90分あるいは100分と設定されている。1回90分の授業を行う場合、最終試験を除いて半期に合計15週の授業が行われる。そして1回100分の授業をする場合は、半期の授業期間は14週になることが多い。

33) 筆者の勤める大学では、1年生の年間の学習到達目標として韓国語能力試験Ⅰの初級(1級)の合格レベルを定めている。

国における外国語としての韓国語教育で見られるような文化教育へのニーズの状況とは幾分異なっていることが十分考えられる。

3-2. 松山大学での韓国語教育³⁴⁾としての文化教育の試み

筆者が所属する松山大学では、韓国語以外の初習言語科目として「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」が設けられていて、韓国語は5つある初習言語の中でも後発走者に入る。しかし、2000年代初めの韓流ブームの影響による履修者数の急増以来、特に2011年度から2020年度までの履修希望者数の推移において、他の初習言語に比べて増減の幅が少なく、むしろここ数年の間は、履修希望者数は小幅ながらも上昇の傾向が見られている³⁵⁾ なお、2018年度のカリキュラム改編によって、2019年度からは現行のカリキュラムが適用されている。

旧カリ³⁶⁾では、学部学科によって若干の違いはあるが、大半の学生は1年生の時に英語のほか、5つの初習言語から1つを選び、初習言語基礎科目として前期と後期それぞれ2単位ずつを必修科目として履修する。そして、例えば、初習言語として韓国語を選んだ学生は、1回90分の授業を週2回、前期と後期を合わせて年間30週学習することになる³⁷⁾そして、基礎科目の4単位を取得した2年生以上は、1年生の時に選択した初習言語（韓国語）と英語の応用科目³⁸⁾から最小4単位分の科目を自由に選択履修することができる。しかし、

34) 松山大学における初習言語の教育理念およびカリキュラムの詳細については、金(2014a)を参照されたい。

35) Hasegawa (2015: 134)では、正確な調査資料はないが、日本国内の大学における韓国語履修者数に関して、日本と韓国の外交問題が影響した結果、2012年度を頂点にして2013年度からは減少しているのではと推測している。

36) 2012年度から2018年度までの初習言語としての韓国語のカリキュラムの詳細については、金(2014a)を参照されたい。

37) 1回90分の授業を週2回、半期15週で単純に計算すると、総教授学習時間は半年で45時間、年間で90時間となる。しかし、シラバスにおいて1回の授業当たり、1時間程度の準備時間（主に予習や復習のための時間）が明記され義務付けられていることから、実際韓国語の履修者がこなす教授・学習時間は年間を通して90時間～150時間程度になると考えられる。

新カリでは応用科目のほかに文化教育を目指す講義科目の履修が始まることから、これまで技能中心に行ってきた言語教育の形態にも何らかの変化が現れることと考えられる。

1年生で履修する選択必修の基礎科目は、韓国語1と韓国語2がある。松山大学では、この1年間の学習到達目標として韓国語能力試験Iの1級を掲げている。2年生になると、人文学部の英語英米文学科の専攻生のみ、選択必修科目として韓国語3（前期）と韓国語4（後期）に進むことになっていて、その他の学部学科生は選択科目としてのみ韓国語3と韓国語4を履修することができる。1年生から2年生までの2年間に及ぶ基礎科目韓国語1から韓国語4までの学習到達目標は、韓国語能力試験I（2級）の合格レベルとなっている。先ほど述べた英語英米文学科以外の学部学科生の場合、1年生の必修選択科目として韓国語1と韓国語2を履修した後、2年生からは選択履修可能な応用科目もしくは基礎科目の韓国語3と韓国語4を選択科目として履修できる。近年の傾向としては、1年生の時に韓国語を履修した学生の約半数だけが2年生向けの韓国語の教科を履修し、またその大半は、応用科目の選択に留まっている³⁹⁾。

基礎科目の韓国語1～韓国語4は、韓国語能力試験Iの1級と2級の到達目標に合わせて教授・学習内容の体系化が図られている。そのため、統一シラバスの下で、言語の4技能を統合した共通テキストを使用し、評価の基準や最終試験までを共通で行っている。一方、2年生からの応用科目の場合は、各教科

38) 応用科目の最低の必修取得単位は4単位となっているが、基礎科目とは違って週1回半期15回の授業で2単位となる。また、現状の初習言語（韓国語）の応用科目には「コミュニケーション」「リーディング」「ライティング」「ステップアップ」「キャリアアップ」といった授業科目が設けられている。

39) 2年生から選択履修できる基礎科目韓国語3と韓国語4は、1年生の時と同じく90分の授業を週2回受けることになっていて、半期に履修できる単位数は2単位となっている。しかし、応用科目を選択すると、週1回の授業で2単位の取得が可能であるため、学習の負担や専攻科目との授業時間の調整、英語教科の選択優先等の理由で絶対大多数の学生は、2年生向けの基礎科目（韓国語3、韓国語4）ではなく応用科目を履修することが多い。

の特徴を生かし、教師の裁量で学習到達目標や評価の基準等が設けられている。先述した通り、2019年度から始まった新カリでは、2年生で履修する授業の単位に変更はないが、応用科目のほか、各言語圏の言語文化研究という名前の講義科目⁴⁰⁾が新設されるようになった。

基礎科目韓国語1と韓国語2の統一シラバスにおいて「授業科目のテーマと目標」のところにそれぞれ「文化」に関わる内容が記載されている。まず、韓国語1の方では、「韓国語の学習を通じて韓国の文化に触れる。」という目標が示されている。韓国語1は、文字の学習から始まる入門レベルのクラスで、授業は主に共通教材⁴¹⁾とワークブックを中心に行われる。したがって、韓国語1の学習者は主に教師と教科書を通して韓国の文化情報に接することになると考えられる。しかし、それらの教科書に出てくる文化関連の内容が韓国語1の成績評定の対象になることはない。

韓国語1と韓国語2を通して使用する共通教材⁴²⁾には、單元ごとに1ページを割り当てた「文化コーナー」が設けられていて、韓国に関する基礎情報や各単元のトピックに関連したテーマについての情報がまとめられ、複数の写真が掲載されている。また、各単元の終わりに「語彙と表現のまとめ」の一覧ページが設けられているが、当該単元で主要な表現として学んだ内容に関わるものをコラム形式でまとめ、1行から数行程度の短い文章で文化関連の内容が綴られている。共通教材で紹介されている「文化コーナー」と「Tip for You」のテーマをまとめると以下のようなものである。

40) 初習言語に特化した講義科目として「初習言語文化研究（韓国語）」というのが正式名称である。韓国語の場合、「韓国の言語と文化理解」というサブタイトルが付けられている。

41) 『いよいよ韓国語』朝日出版社（2018）

42) 松山大学初習韓国語の共通教材開発に関して、教材の構成内容および狙いについての詳細は、金・李（2019）を参照されたい。

〔表4〕 共通教材に登場する「文化コーナー」

	単元	各課のタイトル	「文化コーナー」
韓国語1	文字 (ハングル)		—
	第1課	こんにちは。	—
	第2課	この人は誰ですか。	韓国の基本情報 (人口, 首都, 気候等)
	第3課	これは何ですか。	韓国の交通
韓国語2	第4課	今どこに行きますか。	ソウルでの宿探し
	第5課	趣味は何ですか。	韓国の食べ物①
	第6課	運動靴を買いたいです。	韓国の食べ物②
	第7課	ソウルの天気はどうですか。	韓国での買い物
	第8課	韓国語の試験はいつですか。	韓国の食べ物③
	第9課	地下鉄3号線に乗って下さい。	ソウルの主な観光地
	第10課	冬休みに何をする予定ですか。	釜山と済州島

〔表5〕 共通教材の単元別テーマに関わる文化情報「Tip for You」

	単元	「Tip for You」
韓国語1	ハングル	—
	第1課	名前の表記
	第2課	初対面で相手の年齢を聞くのは失礼?
	第3課	韓国で人を名字で呼ぶのは喧嘩のもとになる?
韓国語2	第4課	「어디 가요?」「어디 가세요?」は、単なる挨拶表現?
	第5課	韓国人が最も好む趣味活動は「登山」?
	第6課	韓国でお店の人を呼ぶ時は「すみません」より「여기요!」「이모!」「언니!」の方が一般的?
	第7課	食事のマナーの違いを知って韓国文化に納得, 役に立つ!
	第8課	韓国と日本では、年齢の数え方が異なっている?
	第9課	韓国の公共交通手段と言えば!
	第10課	尊敬語の使い方は、韓国と日本で大いに異なる?

続いて、韓国語2のシラバスには「韓国語の学習を通して韓国語の使用文化圏に関する様々な情報に触れ、学習者の文化との違いを正しく理解する」とい

う授業の目標が掲げられている。そして、合計 30 回の授業のうち約 2 回分の授業時間を割り当てて「文化理解」をテーマにした発表形式の授業を設けている。さらに成績評価においても全体の 1 割は、文化理解に関わる学生の「発表」の成果によって評点が与えられるようになっている。つまり、韓国語 2 の学習者は全員が授業期間中、一定の時間をかけて自分が興味関心を持った韓国の文化関連のテーマについて個人またはグループ別に情報をまとめ、日本と韓国の文化の比較を行う形式で発表をする活動⁴³⁾に参加することになる。

基礎科目韓国語 1 と 2 を履修した学生に対し、年間の授業の終了時に授業アンケート調査を行い、その結果をもとに次年度の文化関連授業の改善に努めている。以下は、2017 年度に韓国語 2 を受講した学生 221 名を対象に行ったアンケート調査結果の一部で、質問項目のうち「文化」に関わる結果のみを〈表 6〉と図 1 で示したものである。

〈表 6〉 韓国語学習者の「文化」関連アンケート調査の結果

②韓国, 韓国人, 韓国文化に対する理解が深まった。

そう思う	186	84%
そう思わない	6	3%
よく分からない	29	13%
合 計	221名	100%

④授業を通じて韓国文化に対する関心が一層高まった。

そう思う	165	75%
そう思わない	13	6%
よく分からない	43	19%
合 計	221名	100%

43) 「発表」の授業内容に関する詳細は、金 (2014a) を参照されたい。

⑤異文化について学んだ知識を人に伝えることができる。

そう思う	121	55%
そう思わない	22	10%
よく分からない	78	35%
合 計	221名	100%

⑥授業では韓国文化理解のための時間が設けられた。

そう思う	183	82.8%
そう思わない	8	3.6%
よく分からない	30	13.6%
合 計	221名	100%

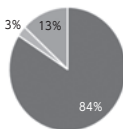
⑦これからも韓国語を継続して勉強したい。

そう思う	141	64%
そう思わない	22	10%
よく分からない	58	26%
合 計	221名	100%

⑧韓国と日本の文化の違いを理解することができた。

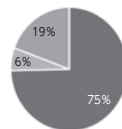
そう思う	183	83%
そう思わない	5	2%
よく分からない	33	15%
合 計	221名	100%

②韓国、韓国人、韓国文化に対する理解が深まった。



*そう思う *そう思わない *よく分からない

④授業を通じて韓国文化に対する関心が一層高まった。



*そう思う *そう思わない *よく分からない

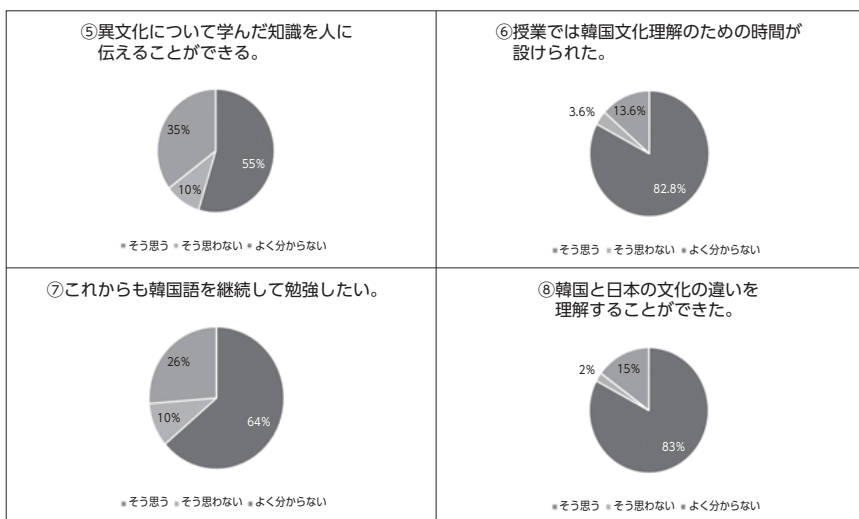


図 1. 韓国語学習者の「文化」関連アンケート調査の結果（2017 年度分）

この結果から、受講者の大半は「文化」の授業内容について肯定的に評価していることが分かった。しかし、設問⑤の結果のように、「異文化について学んだ知識を人に伝えることができる」という問いに関しては、半数を少し超えた人数だけが「そう思う」と答えていて、文化関連の授業内容で得られた知識や情報が十分理解され内在化されるまでは至っていない状況が窺える。また、設問⑦は、言語の授業で「文化」の内容を加味することで更なる学習の動機付けにつながる効果が生み出せたのかを意図した質問であったが、回答はおおよそ 6 : 4 の割合で分かれていて、実際「文化」の授業内容がどれだけ動機付けに繋がったかを測ることは厳しい⁴⁴⁾

44) 設問②と⑧の結果を金（2014：168）の結果と比較すると、設問②に対し金（2014）では「そう思う 67%，そう思わない 18%，よくわからない 15%」で、設問⑧の結果は、「そう思う 73%，そう思わない 14%，よくわからない 13%」であった。したがって、改善を試みながら「文化」の授業を継続していくことの成果として一定の肯定的な評価が上がっていることと考えられる。

2年生向けの基礎科目で後期に当たる韓国語4では、韓国語2で行った「発表」形式の文化理解の時間をさらに発展させ、学習者が自ら韓国文化を体験し、その過程や結果として感じたもの、得られたことを中心に発表を行っている。学生の授業時間内の「発表」にかけられる時間は、韓国語2と変わらず合計2回分の授業に当たるが、学生が自ら韓国の文化を体験するのにかかる時間が加わる分、個人差はあるが、発表の準備時間は倍増されることになる。これまで学生が実践して発表した「文化体験」のテーマには、韓国の伝統遊び、子供の遊び、韓国の伝来童話の読み聞かせ、韓国料理、韓国ドラマや映画の名場面の再演、韓国の人気童謡の紹介などがあり、テーマの選択は学生の自由に任せられている。発表の際は、自分が体験し実践した内容や過程を撮影した動画を見せながら説明するほか、Youtubeの動画を使ったり、手作りのものを用いたりして発表に用いる小道具や材料にも様々な工夫が見られている。ペアまたはグループ別の発表内容について、発表者以外の授業参加者から発表内容について評価をし、その評価点についてのコメントも書くようにした。発表者には授業参加者から寄せられたコメントを返すことで、発表内容についてのフィードバックも与えている。

過去2年間、2年生向け基礎科目「韓国語4」のクラスで行った文化体験の発表の授業内容を振り返ると、まず1年生の時に韓国文化についての「発表」の経験があることから、発表のテーマ選びから準備、当日の発表に至るまでほぼ自主的な学習が行われていたと総評できる。発表内容について教師は一切手を加えないことにしていたことから、一部の発表内容からは韓国文化に対する学生のステレオタイプ⁴⁵⁾が表出されることもあった。しかし、全体としては、Ogoshi (2004)⁴⁶⁾の結果とも類似していて、自ら積極的に韓国文化を体験し、その結果を発表の形式で共有したことで、より韓国文化についての理解も深ま

45) Lee (2018: 320) は、中国人学習者を対象に韓国人に対するステレオタイプの形成の原因について調べた結果、韓国の国外における韓国人に対するステレオタイプは、主に韓国ドラマと映画、エンターテインメント系の番組など、メディアの影響で形成されることが多いことが考えられるとしている。

ることと考える。また、他人の発表内容に対しても肯定的なコメントが多く、さらに興味関心を抱くことになったという評価も多く見られたことから「文化体験」によって一定の学習効果が得られたと考えている。

4. 「韓国の言語文化理解」講座のあり方についての考察

これまでは初習言語としての韓国語教育の中で主に言語知識を育む上でその学習内容と関連された文化の情報や知識を提供することで文化教育が行われてきた。まず入門に当たる「韓国語1」のクラスでは、教師の主導で行われる韓国語の授業の中で「文字と発音」「挨拶および日常表現」「基礎語彙と文型」を学んでいく過程で、学習者は自分の母語とは違う言語の特徴を学び、同時に母語との違いや類似点を学習するようになる。つまり、この段階では、目標言語を学ぶことがそのまま違う文化を学ぶことになり、段階的に進められる言語学習の内容が目標言語の文化を学ぶ過程となっていく。続く「韓国語2」のクラスに進んでからは初級レベルの学習が深まり、言語の4技能の学習に加えて、会話の内容や話題ごとに目標言語の社会文化的情報も付随的に与えられることになる。したがって、学習者は韓国語の学習を通じて言語知識の修得と同時に直接または間接的に自文化と目標文化の相違点や類似点も学ぶことになる。

さらに、「韓国語2」の授業時間中に、教科書中心の言語知識の学習とは別に、学習者が自ら選んだ韓国文化関連のテーマについて調べて発表する時間を設けている。そのことで、言語技能に偏りがちな教授・学習の時間を、限られたものではあるが、「文化」の内容に割り当てることで、より明示的に文化の情報や知識を与えられるようになる。また、学習者が自ら韓国文化に関わる発表のテーマを選択し、実際発表をこなすまでの一連の過程を自主的に計画して

46) 日本の特定地域の大学生を対象に韓国語学習経験者と未経験者の間で韓国に対するイメージ調査を行った結果、学習経験者の方が韓国人に対してより好感を抱く傾向があることが分かった。

行うことで、普段の教師主導の授業とは違ってより積極的に授業に関わるようになる。したがって、発表の授業を通して個々人に内在する学習の動機や意欲の向上も十分期待できる。さらには、ペアまたはグループ別に「発表」の課題を遂行する過程において、学習者自身または自分のグループが行った発表に対し、授業の参加者から発表内容についてのコメントと評点をもらうことで、同じ集団文化に属する複数の他者の意見も知る機会となる。結果として、普段の学習者自身の固定観念や周りの人に対する考え方にも何らかの肯定的な変化が見出せるのではないかと考えられる。

一方で、基礎科目「韓国語1」と「韓国語2」の年間の授業時間と学習到達目標を考えると、授業時間内の文化関連の教授・学習内容は限られたものであることが容易に理解できる。そもそも言語そのものが教科となっていて言語能力の修得を重点的に行う授業形態であることから、目標言語圏の文化について十分な「気づき」ができるとは言い難い。言い換えると、言語を学ぶ授業として教育内容が計画されていることから、文化を教授・学習するための指導案も授業計画も明記されないのが現状である。その結果、もはや学生の自主的な活動として任せられている「発表」の内容そのものにもいくつかの問題点が挙げられる。

金(2014)でも指摘されているように学生がまず韓国文化として興味関心を示すテーマとして、「韓国料理」と「韓流」関係のものが全体の7割程度を占める。このことから、学生が実際にこなす発表のテーマもそれらに限定され偏る傾向が見られる⁴⁷⁾ それに学習者自身、自分が選んだ発表のテーマについての知識も勉強も浅いがゆえに、自分で消化しきれぬ情報だけを集めて伝えようとすると、非常に短編的で単純な事実や現象だけを述べる程度に留まることが多い。そして何より、学生が韓国文化について調べる際、時間的な制約や利便性などの理由から、インターネット上の情報に頼る傾向が非常に高い。それに

47) 韓国文化関連の発表テーマの希望順については、金(2014: 146-147)を参照されたい。

よって、発表内容の信憑性をはじめ、ソースそのものに潜んでいる政治性や偏見、先入観、差別的な態度まで、適切なフィルタリングなしで伝えられることもあることから、教育の効果として憂慮される部分でもある⁴⁸⁾

以上に挙げた問題点に対し、改善に向けた模索として現時点での見解を述べてみたい。まず、何より先に教育理念の部分と当面の学習目標について、教師側の覚醒と共に明確な態度を学習者に示す必要があると思う。語学教師または言語教育の担当者なる者が、第2外国語や初習言語として大学で行われる韓国語教育の意義を当面の学習目標だけの狭い眼目で捉えて縮小してしまうことについて警戒していかなければならない⁴⁹⁾。そのような教師の態度は、韓国語を学ぶ学習者にも無意識のうちに伝わってしまうもので、学習者に対し、単位を取れば良いだけの授業、専攻科目でもなく時間をかけて真剣に取り組むまでの意義を見出せない教科、大学での教育課程が終わればその後の自主的な学習を継続していくまでもない言語といった認識を与えかねない。反対に、むしろ今の時代、これからの時代においてより積極的に他所の文化と言語を学んでいかなければならないことの当為性を力説し、学習動機の付与または向上に努めることが求められる。

続いて、本稿の第2章で概観した外国語としての韓国語教育の中の文化教育

48) 授業担当者の中には学生の発表の内容に関して、発表の前後で積極的に関与する人もいればあえて傍観の姿勢を取る人もいる。発表の内容について単に事実のミスや誤解の程度であれば教師として適切なコメントを与えられると思うが、異文化に対する見方をはじめ、学習者個人の態度や意見、感想にまで積極的に関わることは懸念の声もあることを記しておきたい。

49) これまで一部の教師からではあるが、以下のような声を聞かされることがあった。
「(今の教育課程では) ハングルが読めるようになって、韓国に留学するか生活するようにならない限り会話がこなせるレベルにはならない。執拗に単語や文法を覚えるように指導するまでもないのでは。」「初級レベルの内容を教えるにしても、非専攻生なので、大半の学生は2年生以上で韓国語の学習機会がなくなることが多い。結局は習った文型や語彙などを忘れていく。よって1年生の授業から厳しく学習指導をするまでもなく、楽しみながら授業を受け、単位は楽に取れるようにしたほうが良いと思う。」「厳しい教育内容で授業時間いっぱい文法や語彙を教えるよりは、授業内容は簡単な挨拶や日常的な表現を真似て言う程度にし、代わりに教師の裁量時間を最大にして韓国のあらゆる社会的・文化的なことを余談としてたくさん伝えるほうが、学生にも喜ばれるし、ためになると思う。」

に関するジレンマについては、日本の初習言語の環境下で行われる韓国語教育であればこそ、あえて「言語教育」と「文化教育」を分けて捉える方が望ましいことと考える。そして、教育課程を構成する具体的な教育内容や目標を定める上では、言語能力を成す一部分としての言語知識があるように、文化理解能力を成すための文化知識が別途あると考える。言い換えると、言語学習において段階的で体系的に言語的知識を学習する計画された過程があるのと同じく、文化知識を学ぶ上でも学習者の習熟度に応じた適切な教育課程が必要不可欠であると言える。その上、教育の効率性を踏まえて、言語文化教育⁵⁰⁾の下に属する「言語教育」と「文化教育」のカテゴリーをそれぞれ設け、より特化した教授・学習内容を指導できるようにする⁵¹⁾

上記の考えに立つと、今度開設される「韓国の言語文化理解」の講座は、従来の初習言語の基礎科目と応用科目では付随的に扱われていた「文化」と「文化理解」が主要な教授・学習の内容になる。つまり「文化教育」に特化された講座である。言語の4技能の統合学習でもなければ、コミュニケーション・リーディング・ライティング・検定試験の対策のための授業とは教授内容の性格が全く異なるものとして構成されなければならない。さらに「相互文化の理解」を掲げる教育理念に因んで、客観的な事実と偏らない視点で、学習者の文化的背景も十分考慮した上で、教授・学習指導案を講じていかななければならない。多数の先行研究でも述べられているように、何よりもこの講座を履修希望する学生の動機や学習目的、学習前の知識の程度などを最大限理解した上で教授・学習内容を選定していく必要がある⁵²⁾

文化教育のための教授・学習内容の選定項目として、まずは、第2章で概観した先行研究での分類基準を参考に、文化理解の基礎知識として本学の学習者

50) 本稿で著者はあくまでも「言語」と「文化」の教育目的が分離できないという意味合いで「言語文化」そして「言語文化教育」という言葉を用いて、「言語規範」と区別される意味として「言語文化」を使っているわけではないことを断っておきたい。

51) cf. Moran (2001: 47)

52) cf. Park (2000: 64), Kang & Hong (2011: 33), Kang & Hong (2012: 5)

の習熟度とニーズにあった事項を1次的にまとめることができる⁵³⁾。その上、選定された項目が短編的な知識の伝授で留まらないように、それらのテーマに関連付けられる言語的・社会文化的・歴史的な背景ともなりうる出来事や根拠についての情報も十分与えていく必要がある。またそのような情報の提示の仕方においては、学生が所属する社会や文化について配慮し、教師の個人的な見解を一般化して伝えたり、一方に偏った意見のみを提供したりすることが無いように、情報源における量と質のバランスを保つことも重要となる。

韓国国内においては、国立国語院を拠点に2010年「国際通用韓国語教育課程」の標準モデルが開発され、韓国以外の諸地域で韓国語と韓国文化の普及に取り組んでいる世宗学党の学習者向けに韓国語の教育課程、教授・学習内容、評価、教材などにおける共通の基盤を設けることにしている。そして教育時間を基準に、まず合計72時間の教育時間を基準とする場合は、言語知識に絞った教育が行われるが、その倍の144時間のモデルでは、言語知識(72時間)、言語記述(52時間)、そして文化(20時間)の3つに分けられた教育課程を提案している。その際、学習者が韓国以外の地域に居住していることを勘案して、初級と中級レベルの文化教育は文化知識を重点的に指導するものとしている。そして、中級からは、徐々に文化活動に参加したり、文化を解釈したりすることで文化理解のレベルにつなげることを提案している⁵⁴⁾。しかしながら、現状でも文化教育課程の構築においては教育内容についてのみある程度研究成果が挙げられ、教授・学習法と教材は今現在開発が進んでいる段階である。さらに、評価に関しては、韓国語教育としての文化と一般文化教育としての範疇を明確に区分する基準が容易に定められないこともあって、特に初級段階の文化

53) 金(2014a)では2012年度から2014年度にかけて入門クラスである「韓国語1」の授業開始前にアンケートを行って、学習者の学習動機、韓国語や韓国文化についての事前知識、韓国文化に関連して授業中に取り上げてほしい事項などについて調べている。以降も継続して関連調査を行っていて、最新の調査は、2020年度の入学者を対象に行われた「言語学習背景調査」である。参考までに、その調査内容(アンケート調査紙および回答)の一部を本稿末に「付録」として掲載する。

54) cf. Bac and Kim (2015: 35-36)

能力の評価方法やツールに関しては、研究の数や成果ともに乏しいままであると考えられる。

5. ま と め

言語と文化は不可分の関係にあり、言語を文化の一部として捉えることはごく自然な考え方である。したがって、技能中心の言語学習だけではその言語が話される集団の文化までを配慮した十分なコミュニケーション能力の修得には至らない。ここで、言語の技能中心の学習を超えた言語文化教育の必要性が浮上する。つまり、言語教育の究極的な目的を、言語を介したコミュニケーションを通じて異なる言語と文化に属する他者や集団を理解するためとするなら、言語知識に加えて、当該言語が話される集団や社会についての文化知識、そして文化理解を育むための段階的な教育も必然的に行われるべきであると言える。しかし、言語教育と文化教育の目的は必然的にかき離れたものであるとも考え難い。そのため、強いて言語教育と文化教育を分けて論じるよりは、両者が完全には分離できない相互性を持つものであることから「言語文化知識」「言語文化理解能力」といった統合形の教育課程や教授方案についても今後検討していきたいと思う。

本稿では、外国語としての韓国語教育において、特に韓国内の韓国語教育の現場で文化教育がどのように定義され実施されているのかを、2000年度以降に発表された先行研究を中心に研究の動向と成果を概観した。続いて、筆者が所属する大学を中心に、日本の大学での韓国語教育の現状についてもまとめてみた。以上の内容を踏まえて、松山大学の「韓国の言語文化理解」の講座内容および教育目標の設定、そして評価の基準や方法についても、今後十分な時間をかけながら、試行錯誤を恐れず、改善に向けた模索と研究を続けたいと思う。

参 考 文 献

- 金菊熙 (2014a) 「初習言語教育における相互文化理解の授業の在り方を考える－松山大学の初習言語「ハンゲル」における授業例を中心に－」『松山大学論集』第26巻第1号, 131-171.
- 金菊熙 (2014b) 「韓国の第2外国語科公教育政策の変遷と現状」『言語文化研究』33(2), pp. 45-89, 松山大学
- 金菊熙・李順蓮 (2019) 「初習韓国語の基礎共通教材の開発：教材の構成内容と狙い」『松山大学論集』第30巻第6号, 243-282.
- Bae, Jaewon & Kim, Minjeong. 2015. Study on Developing a Curriculum Design of Cultural Education based Sejong Korean: Focusing on volume 1-4 of Sejong Korean. *Bilingual Research* 58, 33-58.
- Cho, Hangrok. 2015. Research Trend of Korean Language Education Policy and Korean Culture Education. *Journal of Korean Language Education* 26-4, 389-415.
- Hasegawa Yukiko. 2015. Current Situation and Challenges of Korean Language Education in Japan: Focusing on Changes for 10 years from 'Hanlyu'. *International Journal of Korean Language Education* 1(1), 129-148.
- Hwang, Inkyo. 2016. A Study on Korean Culture Education in KFL: examining 'Standard Curriculum of Korean Language for International Use' and 'Culture & Art Syllabus'. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture* 13-1, 163-188.
- Jo, Youngchul. 2018. Reflexion on the Intercultural Education for Establishment of Glocal Multicultural Society. *The Journal of Culture Contents* 13, 175-201.
- Kang, Hyounhwa & Hong, Hyeran. 2011. A Foundational Research on Selecting the Items of Korean Culture Education: By comparing literatures, teaching materials, and research data on the current status of educational institutions. *Teaching Korean as a Foreign Language*, 36, 1~35.
- Kang, Hyounhwa & Hong, Hyeran. 2012. A Study of the Contents of Korean Cultural Education Preference according to Learners Variables. *Language Facts and Perspectives*, 29, 5-49.
- Kang, Hyounhwa. 2017. Cultural Teaching and Discourse Education. *International Journal of Korean Language Education*. 3-1, 1-33.
- Kang, Seunghae. 2012. An Analysis of Previous Research on Korean Culture Education – focused on its topic and methodology. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture*. Vol. 9-1, 1-38.
- Kim, Eunji. 2012. A Study on Culture Curriculum for Korean Language Teachers: Analysis of Graduate School Curriculum. M. S. Thesis, Dept. of Korean Studies, The Graduate School of Yonsei University. Seoul.

- Kim, Jookwan. 2010. The Concept of Culture and Culture Education – In relation to Language Education. *The Language and Culture* 6-3, 43-61.
- Kim, Nam-kil. 2013. The Study of Korean for the Korean-Wave of the Humanities : What and How ? : A Focus on Cultural Education for the Study of Language and Language Teaching. *The Society of Korean National Language and Literature* 51, 31-77.
- Kim, Soohyun. 2005. Analysis of Cultural Education Textbooks for Foreigners and Directions in Organizing those Textbooks. *Journal of Korean Language Education* 16-2, 25-44.
- Kim, Soohyun. 2006. A Study of Cultural Education for Korean as a Foreign Language. *The Korean Cultural Studies* 11, 319-341.
- Kim, Yoonjoo. 2015. A Study on Research Trends and Future Directions of Korean Language and Culture Education for Students Those Who Returned from Abroad : Focusing on Culture Education. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture* 12-3, 1-24.
- Kim, Youngsoon & Choi, Seungeun. 2016. An Exploratory Study on the Practical Contents of the International Learning. *The Language and Culture* 12-2, 1-27.
- Kim, Youngsoon & Choi, Seungeun. 2019. Exploring the Intercultural Korean Education Paradigm based on the Concept of Cultural Translation. *The Language and Culture* 15-1, 1-24.
- Lee, Eunhee. 2018. Korean Culture Education and Stereotypes of Korean Learner : Focused on Undergraduate Foreign Students' Perception About Koreans. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture* 15-2, 305-332.
- Lee, Junghee & Benoit Guillet. 2016. Learners' Perceptions on Korean Culture Education Environment in the KFL context : Based on Byram's Intercultural Communication Competence (ICC) theory. *Bilingual Research* 64, 121-155.
- Moran, Patrick R. (2001) *Teaching Culture : Perspectives in Practice*. Boston : Heinle & Heinle.
- Na, Wonju & Kim, Youngkyu. 2016. A Survey Study of Korean Language Teachers' Intercultural Awareness. *Journal of Korean Language Education* 27-3, 49-80.
- Ogoshi, Naoki. 2004. The Learning of the Korean Language and the Formation of the Image of Korea and Korean People. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture*. Vol. 1-2, 151-162.
- Oh, Jihae. 2013. A Study on Contents for Teaching Korean Language Culture on the basis of Reconceptualization of Cultural Competence - focused on an Analysis of Korean Language-Culture Textbooks - *Journal of the International Network for Korean Language and Culture*. Vol. 10-1, 75-97.
- Pak, Noja (Vladimir Tikhonov). 2000. A Study on Korean Culture Education for Foreigners. *Journal of Korean Language Education* 11-2, 63-88.
- Suh, Hyuk. 2017. The Issues and Tasks of School Education and Teaching Korean Language and Culture. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture* 14-3, 221

-248.

- Yoon, Yeotak. 2015. Qualitative Improvement Plan of Language and Culture Education in Korean Language Education. *Journal of the International Network for Korean Language and Culture* 12-1, 1-22.
- Wang, Yan. 2010. A Study on Trends of Korean Culture Education Research in Korean as a Second Language Teaching, *The Language and Culture* 6-3, 201-238.

本稿は、平成30年度に交付を受けた松山大学特別研究助成による研究成果の一部である。

「付録」

松山大学新1年次向け 言語学習背景調査 (韓国語履修者対象) 2020

*学部/学科: _____ *性別: 女性/男性 *年齢: _____ 歳 *出身地: _____ 県

*以下の各問に対し、該当欄に☑または記述式でお答えください。

問1. 大学に入るまでに、学校教育機関を通して英語以外の第2外国語を学んだことがありますか。

①ある ②ない

問2. 上記1で『①ある』と答えられた方のみお答えください。『②いいえ』と答えられた方は『問3』に進んでください。

①大学入学前に習ったことのある第2外国語: _____

②学習期間は? (例) 高校1~3年、1週1時間(60分授業)

: _____

③教師の構成は『ネイティブスピーカー(母語話者)』『非母語話者(日本語母語話者)』『両方』『その他』のどれでしたか。(複数選択可、『その他』の場合は具体的に記述)

: _____

問3. 松山大学での1年次向け初習言語には韓国語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の5つがあります。このうち『韓国語』は第1希望でしたか。

①はい ②いいえ (第1希望言語名: _____)

問4. 上記3で『①はい』を選んだ方は、以下の①~⑤の問いにお答えください。
『②いいえ』を選んだ方は、以下の②~⑥の問いにお答えください。

①第1希望として『韓国語』を選んだ理由を書いてください。

②第1希望として『中国語』を選ばなかった理由を書いてください。

③第1希望として『ドイツ語』を選ばなかった理由を書いてください。

④第1希望として『フランス語』を選ばなかった理由を書いてください。

⑤第1希望として『スペイン語』を選ばなかった理由を書いてください(人文英語・薬学部を除く)。

⑥第1希望が『韓国語』ではなかった方は、その理由を書いてください。

問5. 『韓国語』についてあなたが知っていることを自由に書いて下さい。

*回答日：2020年 月 日 曜日

問6. 『韓国』『朝鮮』についてどのようなイメージ（印象）を持っていますか。自由にお答えください。

①『韓国』と聞いて、思い浮かぶものを3つ挙げてください。

②『朝鮮』と聞いて、思い浮かぶものを3つ挙げてください。

③『韓国人』『朝鮮人』についてのあなたのイメージ（印象）を述べて下さい。

④ あなたの知っている韓国・朝鮮文化（韓国（朝鮮）由来のもの、習慣、料理、社会体制など）について述べて下さい。

⑤ 『韓国語』『朝鮮語』について知っていることやイメージを自由に書いて下さい。

問7. 『韓国・朝鮮文化』に関連して、授業中に取り上げてほしいものを書いて下さい。

問8. あなたは、語学学習に向いていると思いますか。() ①思う ②思わない ③どちらでもない

問9. 外国語を上達させる上で重要だと思われるもの（学習態度など）を自由に述べてください。

問10. あなたの今後1年間の『韓国語』学習に対する自己到達目標を述べてください（1年後の自分の韓国語のレベルを想定して書いてください）。

問11. 1年次向け『韓国語1・2』の授業に関して、要望や提案等があれば書いてください。

どうもありがとうございました。

2020年度言語学習背景調査（韓国語履修者対象）の結果（一部内容のみ抜粋）

- * 調査期間：2020年5月末～6月上旬
- * 調査対象人数：合計30人（男子学生19名，女子学生11名）
- * 回答者の出身地：愛媛県23名，その他7名（愛媛以外の四国5名，四国外2名）
- * 調査時の年齢：18歳23名，19歳7名

1. 大学に入る前の第2外国語の学習経験の有無：全員なし

3. 韓国語は，第一希望であったのか：全員第1希望

4-① 韓国語を選んだ理由：

- ・日本語と似ていると聞いたから
- ・先輩から勧められた
- ・韓国ドラマをより理解できるようになりたいから
- ・日本から韓国は最も近く，もし旅行した際使えろと考えたから
- ・韓国語が将来役に立つと思ったから
- ・友人が多く選択していたことと，英語にも似ていない文字に興味を持ったから
- ・一番興味があった。友人も韓国語を選んでいたので
- ・韓国のブランドやドラマなどに興味があるから。韓国語を勉強して旅行に行きたいと思ったから。日本に近い国の言語を学びたかったから
- ・隣の国なのと，SNSなどで韓国の人を見かけることが増えて興味があったから
- ・韓国のドラマなどが好きで今は字幕がないとわからないけど学習を進めていき，自力で読んだり書いたりしたいと思ったから
- ・興味があったから
- ・韓国の文化に興味があるから。韓国ドラマをよく見ていて字幕なしで見れたらいいなと思ったから
- ・韓国に旅行に行ったことがあって韓国に興味があるのと，実際にもう一回韓国に行って韓国語で現地の人と会話がしてみたいと思ったからです
- ・ハングル文字を読めるようになりたかった
- ・韓国のアーティストの曲を聴いたり身近に感じたから
- ・最近いろいろな文化や食べ物が入ってきているため読めるようになるともって面白くなるのではとおもったから
- ・興味があったから
- ・文法の使い方が日本語と似ていると聞いたから
- ・昔から韓国語に興味があり，読めるようになりたかったため

- ・高校の時の担任の先生が韓国に詳しく、それで興味を持ったから
- ・隣の国で使う機会がこの先あるかもと思ったから
- ・少し興味があったから
- ・韓国に旅行に行きたいから
- ・韓国の文化を知りたいと思ったから
- ・韓国人の Youtuber をよく観ていて、韓国語を学んでみたいと思ったから
- ・一番身近だと思ったから
- ・特に理由なし
- ・習ってみたかったから
- ・韓国語に興味を持っていたから
- ・先輩に相談して、良さそうだなと思ったから

6-① 韓国と聞いて思い浮かぶもの：*回答なしの空欄のものは記載なし（以下同様）

- ・整形, きのこ, キムチ
- ・キムチ, K-POP, 韓国コスメ
- ・韓国ドラマ, キムチ, おしゃれ
- ・辛い食べ物, 韓流アーティスト, 韓国ドラマ
- ・キムチ, BTS, エステ
- ・K-POP, 参鶏湯, チゲ
- ・コスメ, 食べ物, アイドル
- ・あまり仲が良くない, 食べ物, ハングル
- ・美容, 食べ物がおいしい, K-POP, 韓国ドラマ
- ・キムチ, ドラマ, トッポギ
- ・日韓問題, ドラマ, 食文化
- ・韓国ドラマ, キムチ, K-POP
- ・チマチョゴリ, 兵役, アイドル
- ・ソウル, 観光, BTS
- ・キムチ, 焼肉, チーズドック
- ・料理が美味しい, ドラマが面白い, K-POP がいい
- ・キムチ, アイドル, 兵役
- ・キムチ, 学歴主義, 韓流アイドル
- ・キムチ, 親善試合, チマ・チョゴリ
- ・キムチ, ソンフンミン, 日韓ワールドカップ
- ・韓国ドラマ, 韓国アイドル, ハングル
- ・ご飯がおいしそう

- ・キムチ, 民主主義, ビビンバ
- ・チキン, チーズ, キムチ
- ・料理がおいしい, Twice, スポーツマンシップが悪い
- ・K-POP, チーズタッカルビ, 美意識が高い
- ・キムチ, 海苔, 冷麺
- ・K-POP, サッカー, 野球
- ・キムチ, K-POP, 日本人と顔が似ている

6-④ 知っている韓国・朝鮮文化：

- ・キムチ
- ・分からない
- ・キムチ, プルゴギ
- ・キムチ, ビビンバ, 韓流アーティスト, 韓国ドラマ
- ・ビビンバ, サムギョップサル, トッポギ
- ・ハットグ, トッポギ
- ・ハングル文字, キムチ, チーズ, ドラマ, K-POP
- ・キムチ, 焼肉など日本で親しまれている料理も多い。北朝鮮は社会体制が日本と違う
- ・キムチ, チーズタッカルビ
- ・韓国の料理について, 辛い料理が多く, 日本と違い毎食のおかずが多い。朝鮮の社会体制について, 独裁されているイメージ。
- ・お酒を飲むときは顔を合わせて飲まない, 銀のお皿, お箸, トイレにトイレットペーパーは流さない
- ・キムチがおいしい, 兵役がある, 民族衣装がある
- ・キムチ, 辛い食べ物, ハングル
- ・お皿を手にとって食べてはいけない
- ・キムチ, 男性は兵隊の訓練に行く
- ・特になし
- ・(料理) キムチ, ビビンバ, プルゴギ, サムギョップサル, 社会主義
- ・キムチ, チマ・チョゴリ
- ・キムチ, ハングル
- ・キムチ
- ・辛いものが多くて美味しいものが多そう。食事のマナーがあまりなさそう。
- ・キムチ, 冷麺, 焼肉
- ・キムチ, 焼肉
- ・焼肉は韓国発祥と聞いたことがある気がする
- ・わからないので, 言語を学ぶと共に勉強覚えられたらと思う

- ・キムチがおいしい
- ・韓国のり, キムチ, 徴兵制
- ・ペアルックを着てデートするカップルが多い

7. (韓国文化について授業で学びたいこと) : * 回答横の (数字) は, 重複回答の数

- ・特になし (5)
- ・近代の流行
- ・歴史や生活様式
- ・韓国の観光地
- ・韓国料理
- ・食べ物系, 歴史
- ・特に思いつかない
- ・食文化, 建国されてからの歴史
- ・食べ物
- ・日本のことをどう国民が思っているのか。政治家などではなく一般人が。日本の取り入れられている文化。
- ・食事の方法やマナー, お勧めの場所
- ・食生活や民族衣装について
- ・なんで日本で有名になるアーティストが多いのか
- ・食文化
- ・辛いものになぜ強いのか
- ・韓国固有のことわざ・言い伝えについて学びたいです
- ・自分の韓国や北朝鮮に対するイメージが180度変わるようなもの
- ・観光地
- ・食べ物, 習慣
- ・食文化
- ・日韓関係について
- ・芸術系に興味がある

10. 今後1年間の自己到達目標 :

- ・韓国語が読める
- ・日常会話ができ, 簡単な文章が書ける
- ・ある程度の単語を覚えて基本的な会話が少しでもできるようにする
- ・韓国旅行に行ったとして, 日本人旅行者として困らない程度に喋れるようにしたい
- ・書いて読める
- ・基本的な文法等は確実にマスターさせる

- ・韓国語を読めるようになる、基本的な文章は読み書きできるようになる、簡単な文で会話できるようになる
- ・簡単な文章を読めるようになる
- ・文字を書けるようにして読めるようになる。基本的な単語やあいさつなどは読み書き、発音できるようになる。
- ・たくさんの韓国人と話せるようになる
- ・いつか韓国ドラマを字幕なしで見たいです。
- ・韓国に一回旅行にいったことがあります、話せなかったので少しでも話せるようになりたい。韓国に留学したい
- ・簡単な単語の意味がスラスラ分かるようになりたい。先生や韓国人の方とちょっとでもいいから韓国語でコミュニケーションが取れるようになりたい
- ・基本的な挨拶や会話ができる
- ・せめて書けるようになりたい
- ・韓国語である程度の会話ができる
- ・読めるようになる
- ・基本的な単語や文法を理解して読み書きができるようになる。
- ・韓国語の発声と基本的な会話・理解に努めたいです
- ・ごちなくではあるがゆっくと韓国語の単語を覚える
- ・話せるレベル
- ・習った言葉などを喋れるようにしたい
- ・ゆっくりだけ話せる、書ける、発音覚える
- ・韓国語で少し話せること
- ・母音、子音を完璧に覚える。ある程度書けるようになる。
- ・簡単な会話ならできる
- ・軽くしゃべれるようになりたい
- ・韓国語が読めるようになる
- ・なんて言っているのか聞き取れて、意味が分かるようになる